

就労継続支援 B 型利用者の 就労に関する意向調査報告書

令和 3 年(2021 年)度

明石市地域自立支援協議会しごと部会

調査概要

1. 実施主体

明石市地域自立支援協議会 しごと部会

2. 調査目的

就労継続支援 B 型事業所の利用者の就労に関する意向を調査し、今後のしごと部会の活動内容に反映する。

3. 倫理的配慮

調査の回答内容は厳重に取り扱い、個別票は公開せず、調査結果は統計処理したうえで公開する。

4. 調査期間

令和 4 年 1 月 24 日～令和 4 年 2 月 8 日

5. 調査対象

明石市内及に所在する就労継続支援 B 型事業所 55 か所

6. 調査方法

郵送回収法による記名式質問紙調査

7. 回答状況等

- ・回答数：47 件
- ・回収率：85.5%

8. 事業所の主たる支援対象 (N=47)

- ・全ての障害種別を対象としている事業所は 4 箇所

	回答数	%
身体障害	17	36.2%
知的障害	38	80.9%
精神障害	39	83.0%
発達障害	18	38.3%
難病	6	12.8%

○ 利用者の年齢別分布（登録者数）

1. 全体（N=1,169）

	男性	女性	合計	%
20歳未満	25	11	36	3.1%
20歳～29歳	159	112	271	23.2%
30歳～39歳	117	90	207	17.7%
40歳～49歳	156	94	250	21.4%
50歳～59歳	114	108	222	19.0%
60歳～69歳	85	59	144	12.3%
70歳以上	21	18	39	3.3%
合計	677	492	1,169	100%

2. 身体障害（N=100）

	男性	女性	合計	%
20歳未満	3	1	4	4.0%
20歳～29歳	8	11	19	19.0%
30歳～39歳	7	7	14	14.0%
40歳～49歳	10	7	17	17.0%
50歳～59歳	10	9	19	19.0%
60歳～69歳	16	5	21	21.0%
70歳以上	4	2	6	6.0%
合計	58	42	100	100%

3. 知的障害（N=407）

	男性	女性	合計	%
20歳未満	14	7	21	5.2%
20歳～29歳	106	60	166	40.8%
30歳～39歳	53	41	94	23.1%
40歳～49歳	49	26	75	18.4%
50歳～59歳	21	14	35	8.6%
60歳～69歳	7	8	15	3.7%
70歳以上	1	0	1	0.2%
合計	251	156	407	100%

4. 精神障害（N=570）

	男性	女性	合計	%
20歳未満	0	3	3	0.5%
20歳～29歳	12	24	36	6.3%
30歳～39歳	54	37	91	16.0%
40歳～49歳	86	60	146	25.6%
50歳～59歳	81	78	159	27.9%
60歳～69歳	59	45	104	18.2%
70歳以上	16	15	31	5.4%
合計	308	262	570	100%

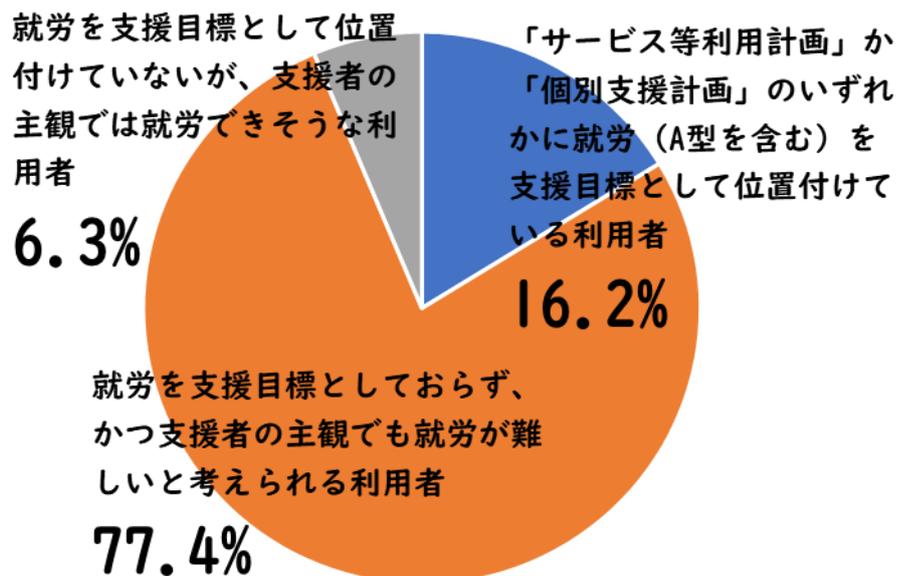
5. 発達障害 (N=81)

	男性	女性	合計	%
20歳未満	8	0	8	9.9%
20歳～29歳	33	17	50	61.7%
30歳～39歳	2	5	7	8.6%
40歳～49歳	9	1	10	12.3%
50歳～59歳	1	3	4	4.9%
60歳～69歳	1	0	1	1.2%
70歳以上	0	1	1	1.2%
合計	54	27	81	100%

6. 難病 (N=11)

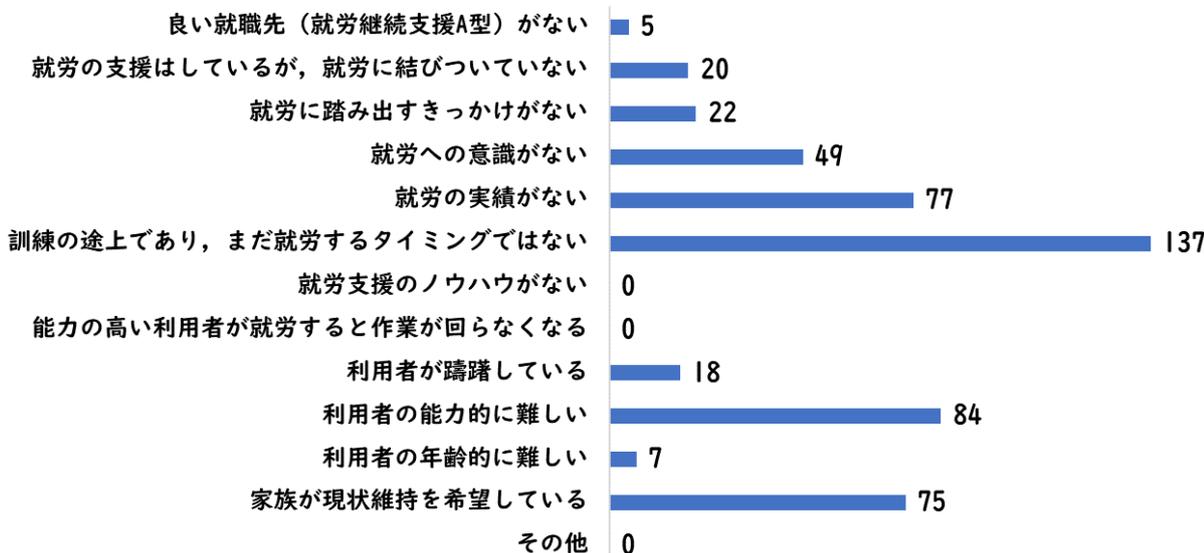
	男性	女性	合計	%
20歳未満	0	0	0	0%
20歳～29歳	0	0	0	0%
30歳～39歳	1	0	1	9.1%
40歳～49歳	2	0	2	18.2%
50歳～59歳	1	4	5	45.5%
60歳～69歳	2	1	3	27.3%
70歳以上	0	0	0	0%
合計	6	5	11	100%

○ 利用者の就労に関する意向等 (N=1,090)



○ 「サービス等利用計画」か「個別支援計画」のいずれかに就労（A型を含む）を支援目

標として位置付けている利用者の就労を目指す上での課題（MA=494）



○ その他具体的な内容（自由記述）

- ・自分に合う仕事が見つからず、一般、A型に行ってもすぐに辞めてしまうことがある。
- ・就職という言葉が一人歩きしており、簡単に考えてしまっているところがある。具体的に就職に向けての話をすると「よくわからない」「面倒くさい」となり、それに向けて何かを頑張るといことにつながらない。
- ・就職の実績が少ない。
- ・本人は就労A型を目指し気持ちは頑張れるが、行動が伴わないことで、気持ちがあっちへ、こっちへと動いてしまっているという状態である。
- ・サービス等利用計画や個別支援計画に就労を支援目標としていない利用者さんでも、ご自身で就労に向けて動いている方もおられます。
- ・生活保護を廃止してしまう事になるのが不安。労働時間、体力面での不安。事業所以外での対人関係の不安。
- ・就労経験でのプレッシャーが気になっている。以前一般就労をしていたが、その際に経験した辛い思いもあり再度一般就労にベクトルを向けることが、本人としても難しい様子。
- ・利用者さんのニーズを踏まえた技能や支援体制が整っていない。就労をイメージした訓練メニューとしての作業内容ではない。企業見学や体験へとつなぐ方向性が事業所の中に位置づいていない。就Aや就労移行支援事業所の体験実習の回数をもっと増やしていきたい。少なすぎるので。

○ 就職ができる・就職が難しいを考える基準（自由記述）

- ・支援員（他人）の話を素直に聞く事ができるか。施設へ毎日通う事ができているか。（規則正しく生活できているか）些細な事でも相談できるか。報告連絡相談ができるか。
- ・継続して働く体力。
- ・B型では作業が出来ていても少し難しくなると能力がついていかない。
- ・精神状態の安定が保てているか。就労できる体力がついているか。
- ・家族の考えが就労に向いていない。
- ・作業に飽きるため、一つのところに長続きしない。人みしりが強く、周囲となじめないため。
- ・年齢的、能力的に難しいのもあるが、ご本人、家族が現状維持を希望していることが多く、一般就労については現状では難しい。
- ・自分の意志、意見に沿うことがない時の対応。清潔さや一般的なこと（ゲップやおなら）をわきまえる。
- ・コミュニケーション面で難しい所があると感ずることがある。
- ・就労習慣（意識）の確立。
- ・一般就労を目指す前の施設の雰囲気慣れる。決まった時間や曜日に通所できるようになることを重要とし、支援をおこなっているため、今の状況では就職を計画の中に入れていないため難しい。
- ・対人関係の構築。やりとげるといふ意思。自力での通所。
- ・8時間くらい働ける体力があるか。毎日通所して遅刻がないか。あいさつ。報告、連絡が出来ているか。
- ・就労出来ると考える第一基準としては、毎日施設通所が出来ており、作業に対していも意欲的に取り組む事が出来る事と考えています。その上で作業手当の1日最大2.5時間の作業に取り組める事为目标に行って頂いたり、作業内容の出来具合などを見ています。
- ・体調の安定、本人の意欲、本人の適正に合った職種、継続できる勤務地、対人関係の維持ができること。
- ・受け入れ先（職場の環境、人間関係等）知的障害への理解が難しいと感じている。
- ・一般就労への経験がなく、本人の希望で就労を目指しているが、訓練の途上でもあります。（コミュニケーション、生活課題など）
- ・休みがちである。生活保護の金額の減額を嫌がる。
- ・ご本人に就職したいという意思があるか。指示どおりに作業が出来ているか。無遅刻・無欠席出来ているか。欠勤時に作業所に連絡出来ているか。他者とのコミュニケーションが取れているか。
- ・出来る：通所のペースが安定している。笑顔が増える。精神面の安定。（ゆるやかな波は○）難しい：通所状況の波がある。（ひきこもりがち）精神面が不安定。（特に他人の事が気になる）
- ・精神面が不安定な利用者さんは就職へのステップアップは難しいと思います。
- ・就職ができる基準—個別支援計画の長期目標の達成度。施設外就労の経験。就職が難しい基準—事業所の勤怠状況。報告・連絡・相談などのビジネスマナーの欠如。
- ・作業能力面は問題なくても、対人関係を始めとするメンタル面が安定していないと一般就労に向けての後押しがしにくい。

- ・手先の器用さ。自分自身を客観的に見ることができるかどうか。臨機応変に行動できる力。周囲とのバランスが考えられるかどうか。
- ・時給程の能力を有していない。
- ・基準はあえて設けず意欲を継続されている利用者については企業等への実践研修に参加をしてもらい客観的評価をいただくようにしている。
- ・家族の理解。
- ・仕事に対する本人の考え方。周囲のサポート体制。タイミングが重なれば上手くいくと思う。
- ・①自傷や他害が目立つ。②障害が重複している。(知的と精神、身体と精神等)③家族や本人(当事者)が現状維持を希望している。
- ・仕事の能力。本人の仕事に対する意欲。本人の就労に対する意欲。
- ・作業指示の理解度。取り組み姿勢。完成度。
- ・働く意欲(決意)があるか。能力(理解力、スピード、正確性)に困難があっても「報・連・相」「謝罪」ができ、相手との信頼関係を築けるかが重要だと思います。
- ・ほぼ毎日通所をされ、朝一に来所され1日通して作業に従事できる人を基準都市、能力の高さも考えています。
- ・失敗することが嫌な利用者も多く、新しい作業もなかなか習得するまで時間がかかる。新しい環境になじむまで時間がかかる。
- ・挨拶ができるか。報告・連絡・相談ができるか。通勤ができるか。ルールを守れるか。指示に従えるか。持続力・集中力があるか。正確に行うことができるか。最後までやり遂げられるか。自分自身の長所・課題が整理できているかなど
- ・コミュニケーション能力。作業の仕上がり。精神的強さ。
- ・挨拶、返事、困った事や自分の思いをしっかりと話せるか。出勤時間、作業時間を守れているか。1日5時間ある作業をこなせているか。体力、精神面で疲れてしまっていないかどうか。
- ・障害の種別が重複している。客観的に見て本人に意欲がないと見て取れる時。高齢である。(55歳くらいから)身体が重度の方。
- ・地域生活を安定して送り、他者と最低限度のコミュニケーションを図ろうとする意思が本人にあるかどうか。
- ・本人および家庭が就労を積極的に意識しているかどうか。対人関係において過度なストレスを感じるか。
- ・環境適応や持続性、物事の受け取り。
- ・本人の意欲。家族の支援。人との関わり方。

○ 就職が難しいと判断している利用者が就労を希望している場合の返答(自由記述)

- ・まずは施設にて作業能力の向上に努めましょう。(自信をつけていきましょう)定期的に話をしながら、今後の進路について決めていきましょう。
- ・就職するために必要な事項を伝え、努力するように促している。
- ・B型に通うにあたり、作業の正確さ、身だしなみ、言葉遣い等がきちんと出来るようになってからの

こと。

- ・週5日安定して通所が続けられれば考えていきたいと思いますと伝えている。精神的な波が安定していなかったり、入退院を繰り返す方も多いので。
- ・就労移行等の他施設を紹介・説明。思いをくわしく聞き取る。
- ・もう少し訓練を続けてみましょうと伝える。施設外支援先を紹介し、どんな作業ができるか訓練するのも一つの手であると伝える。
- ・少しずつ出来ることを増し、一緒にがんばりましょうと伝える。
- ・もう少し、職業（働くこと）を勉強しましょう。
- ・同じ事業所内で内職のレベルが違うので、まずそこからステップアップして行きましょう等、お声掛けしている。
- ・難しい旨、理由を伝えた上、返答しています。
- ・利用者の気持ちに寄り添いながら難しいとされる原因をあげ、共に解決方法を見つける。また就労することで何を最優先とするか、例えば収入、社会的地位、充実感など利用者が就労することで得たいものを明確化することで代替できることはないか、他のことで満たせないか共に考え、利用者にあった方向性や着地点をみつきたいとその旨を返答したい。
- ・まず本人のやりたいことを書き出す→それがどんな職種なのか一緒に考える→その職種が何をするのか考える→今の自分にできることを書き出す（作業、人間関係、通所方法など）→あとは何が必要か考えてもらう→それを今は頑張ろうと伝える。
- ・通所が安定しているか、精神面でも人間関係・コミュニケーションが取れているかを確認している。その方の今の状況で就職された場合をご本人様と共にシュミレーションしてみて、イメージしやすくする事で課題となる点を出しながら、利用計画や個別支援計画に盛り込んで、目標に近づけるよう支援させて頂いています。
- ・まずは本人の意向に沿って一般就労に向けての相談に応じ、就Aの体験や求人検索、面接の練習等サポートを行う。様々な経験をしていく過程で見えてきた各々の課題に対し、「色々な作業に挑戦して自分に合った仕事を見つけていきましょう」「継続して働ける体力や精神力を身につけていきましょう」「体調を安定させてステップアップしていきましょう」と本人の良いところを伝え、意欲が維持できるように返答しています。
- ・スキルアップを目指して、社会性（言葉づかい、挨拶、身だしなみ等）日々支援している。
- ・まずは日々の通所を確実にいき、作業を選ばず行うことの必要性を養うこと。
- ・少しでもいいから、就労を目指して頑張ろうと話をしている。
- ・本人が希望する職業、お仕事内容を詳しく聞き、日中の作業時間に職種にあった作業を提供している。提供が難しい場合は、希望する職種について一緒に調べどのようなスキルが必要なのかを一緒に考えています。
- ・あくとの利用、就労移行への紹介をしています。
- ・まずは上記の事がきちんと出来るように生活面やメンタル面を傾聴し、一緒に改善案を考えたりアドバイスしています。
- ・まずは毎日の通所と滞在時間を少しずつ増やし生活のリズムを作る事を目指し、これをクリアし皆勤月が数か月続いたら具体的に一緒に考えていきたいと思いますと話をします。

- ・個別面談の時間を取り、個別支援計画の内容を改めて説明し、どの課題が残っているから今は難しいと、作業内容や勤怠状況などを照らし合わせ納得するまで説明する。
- ・該当者がいないが、体験機会を通じて自身の課題に気付けるよう促していく。
- ・ご本人が就労を希望しているならば、少しでも能力を発揮できたり、得意分野を生かせたり、病状の理解を得られる職場に繋がるよう声掛けしている。
- ・企業が欲しいと思って貰える存在・人物になるため、〇〇な部分を強みに出来るようやっつけていこう。これも企業実習等にチャレンジされるかを確認する。意思の尊重と客観的ハードルをわかりやすく説明する。
- ・まず就労移行を利用して、働く準備をしましょうと伝えています。
- ・希望があるのであれば否定はしない。ただ一度実習という様な形で実際に一般就労を体験してみて自分の能力を計ってもらうと思う。
- ・就労を希望している利用者さんには見学や体験をする機会をもってもらうようにしている。その上で担当者会議（相談員・管理者・サービス管理責任者、居宅支援事業所等）を開き、就職が難しいことを伝えている。
- ・所属の事業所でまずは作業の力をつける。そして場合によっては就労移行などにまずは挑戦してから再度就労に関して検討してみましょう等の声かけをしています。
- ・仕事体験実習に参加してもらい現状を理解していただく。
- ・職業評価、職能評価を提案し、第三者の客観的な評価を受けてから再度話し合うようにしています。就労するにあたって何が大切かを一緒に考え、それが行えているかどうかを確認してもらうようにしています。
- ・やりたいという気持ちを大事にしながらも色々な作業をやってみて、出来るようになったら次のステップね！と声をかけている。
- ・本人、家族と十分に話し合い、可能性の有無を確認している。
- ・どのような仕事を希望か聞いて、その仕事について一緒に考え難しいのではないかと伝える。
- ・まずは、9時～15時、休憩時間をしっかり守り週5日勤務出来る事を目標にしましょう等。その方の足りない部分をオブラートに包みながら、〇〇を伸ばしていきましょうと話をしています。今すぐは難しくても伸ばしていく所をしっかり話をする事で納得され目標を持ち頑張っておられます。
- ・多職種（障害福祉課、社会福祉協議会、相談員）を交えた会議に本人も出席いただいて就職が難しいと判断されるという意見を聴いていただく。
- ・本人がイメージしている就労、就職について聞き、それへ近づくために今後何が必要か本人と確認する。
- ・体調を整えつつ、実経験を重ねることで社会での生活を学んでから具体的に就労を考える。
- ・一般的な就労時間等をお伝えし取り組みの意識を確認。就労にて、日数、時間ともに継続可能か取り組みを確認。一旦は意思表示を受け、意思に対し前述のようにお伝えし、本人と相談し、取り組みまで行ってます。

（以下、余白）